
講演 1. 医療被ばく低減施設認定について ～重要性と取得に至るまで～

聖マリアンナ医科大学病院
(公社)日本診療放射線技師会 医療被ばく低減施設認定チーフサーベイヤー 佐藤 寛之

行為の正当化が検討され行われている放射線検査ですが、受ける側の一般市民（患者）は、「医療被ばく」のリスクに対し過剰な反応を示しております。一方、厚生労働省などの関係機関は「医療被ばく」に対し、近年様々な提言等を発表しています。2015年、J-RIMEより放射線検査における目安線量ともいえる「診断参考レベル 2015」、2017年には内閣府の特別機関である日本学術会議よりCT検査による医療被ばく低減に関する提案と相次いで提言されています。医療保険では医療被ばくに関連する項目が含まれる「画像診断加算 3」が設定され（2018年）、厚生労働省医政局が行っている「医療放射線の適正管理に関する検討会」では、医療被ばくに対する把握・個人管理の検討がなされています。今後、医療施設には医療被ばくに対する様々な対応が求められています。

公益社団法人日本診療放射線技師会では、放射線検査の線量把握およびその最適化、患者の個人線量管理、検査による放射線影響の説明や所属職員への教育訓練などを行っている施設に対し、「医療被ばく低減施設」として認定を行う事業を全国展開しております。この認定制度は、厚生労働省が現在検討している医療被ばくに対する多くの諸問題に対処しています。また、所属する診療放射線技師のスキルアップや延いては患者（国民）に対し、放射線検査の安全性や安心を与えることが可能となります。

当日は、医療被ばく低減施設認定制度の概要や注意点等を説明したいと考えております。終了後には、個別相談と認定施設である当院のマニュアル等も公開も予定しておりますので、認定制度に興味のある方やご不明な点のある方の参加をお待ちしております。